翻刻『大坂川魚問屋文書(三)』

天理大学 佐藤 敏江

中之島図書館 日置 将之

中央図書館 小笠原 弘之·北川 敬子·

八木 美惠·山田 瑞穂苗村 昌世·灘井 雅人·

はじめに

『大坂川魚文書』の中から、「通達〔帳〕」を翻刻する。

「通達[帳]」

一八五丁。 原資料は大阪府立中之島図書館蔵(大和銀/九-一)。十七×十四㎝、表・裏表紙各一、本文

魚問屋仲間に対して出された通達集。 幕末の文久三年(一八六三)九月から明治五年(一八七二)四月にかけて、年行司から大坂川

参考

大阪府立中之島図書館所蔵 銀文庫基金 二〇〇四年) 大和銀文庫目録」(大阪府立中之島図書館編 公益信託大和 42

「資料大阪水産物流通史」(大阪水産物流通史研究会/編著 三一書房 一九七一年) 「大阪府漁業史」(大阪府漁業史編さん協議会/編 大阪府漁業史編さん協議会 一九九七年) ほか

凡例

- ・原本の忠実な翻刻を原則とし、旧漢字はそのまま表記した。
- ・異体字は標準の字体に改めた。但しゟ(より)はそのままとした。
- ・かなの古体・変体は原則として現行の平かなを使用した。但し、江(え)・与(と)・者(は)・茂(も) などの慣用字は、原本のままとし小字で表記した。
- ・反復記号「ゝ」「^」「^~」等は原本の通りに表記した。
- 追筆等は本文中に繰り込み、書き損じ等特にその必要を認めない場合は省略した。
- ・解読不可能の字は□で示し、誤字・脱字・衍字などは原本のまま翻刻し(ヵ)(ママ)と傍注した。
- ・文中の「印」は原則店舗印を示す。丸印は옏、角印は回で表記した。個人印については옏(個人
- 印)と補記した。

通達[帳]

(表紙)「文久三亥年

通達□」

御相談申度義出来候三付明廿二日市仕舞後無御不参拙宅江御出席可被下候 以上

九月廿一日 年行司(周 屋)

鮒亀殿印

鮒亀殿印

備久殿印

備米殿印

鮒庄殿印

鮒政殿回

備中福田新田幸蔵与申仲買是迄ふじとミ善治郎 朝の万蔵右両家へ賣捌来り居候処 當年 ニ而追♪せり上候義ニ而双惣之迷惑ニ付右之通無買来り居候 両家之義ニ付若大坂へ積登 之儀格外高直之義を申賣渡し不申 依之自然大坂表へ直ゝ持登り高直ニ賣捌候時者国方 共着船二付仲間申分無候<共 右三分方之処御心得可被下候 候節ハ御心得を以御買取之上三分方此方へ御廻恵被成下度と頼越し候付何れへ着ニ相成候 亥十月十五日 年行司 (問 屋) 此段通達いたし置候 43

鮒亀殿印

備久殿印

鮒亀殿回

備米殿印

鮒政殿回

右之通相定申候間御承知ニ候ハン御調印可被成候 已上 一當節季商人取引市賣之分六貫四百文 外是迄之通り

亥十月

年行司 (問屋

鮒亀殿印

鮒亀殿印

備久殿印

備米殿印

鮒庄殿印

鮒政殿回

一大榮丸荷物之内仲間割口銭左之通配當致候間夫^御請取可被下候 以上

亥十二月五日 さの太回

一六拾四貫九百八拾文 残(虫)メ弐百六貫六替

此半割

世 弐 貫 四 百 九 十 文 備久殿渡印

残 丗弐貫四百九十文

六貫四百九拾八文宛

鮒亀殿印

鮒亀殿印

備米殿印

備久殿印

鮒政殿回

一當節季商人取引

市賣之分 六貫弐百五拾文

外是迄之通り

亥十二月 年行司 (町屋) 右之通り二相定メ申候間御承知候ハー御調印可被成候 已上

備久殿印

備米殿印

鮒亀殿印

鮒亀殿印 鮒正殿印

鮒政殿

一當節季商人取引

市賣之分 六貫三百五拾文

外是迄之通り

備久殿印

備米殿印

鮒亀殿印 鮒亀殿印

鮒正殿印

鮒政殿

覺

備中引船 兼吉

右備久殿へ着荷被致候差支無之候ハ、御承知御調印可被成 若差支有之候ハ、御名前下へ御

印可被成候 以上

子三月廿五日 鮒亀殿

年行司 (問 屋)

鮒政殿

鮒亀殿

京都取引之義二付御相談申度候間明十三日昼飯後早~拙宅<御出席可被下候 以上 子四月十二日 年行司 (問 屋)

備久殿印

鮒亀殿印

備米殿印

鮒亀殿印

鮒政殿

一當節季商人取引

市賣分 六貫四百文

外是迄之通り

右之通りニ相定候間御承知ニ候ハト御調印可被成候 以上 年行司 (年行司)

子五月

備久殿印

備米殿印

鮒亀殿印

45

鮒正殿印

鮒政殿印

一當節季商人取引

市賣之分 六〆五百文

外是迄之通り

右之通り相定メ候間御承知調印可被成候 已上

子七月

年行司 (問 屋)

備久殿印

鮒亀殿回

備米殿回

鮒亀殿印

鮒正殿印

鮒政殿回

御相談申度儀有之候間明八日八ツ時當方宅江御出席可被下候

備久殿印

年行司 (間 屋)

子八月七日

鮒亀殿印

鮒政殿回

一先達而集會之節相談申置候通国。荷主へ直段引下ヶ方通達致し置候処備後水呑村荷主ら ヘ者休商可致哉之旨申被越候ニ付何分ニも直段引上ヶ候義者不相成段申答置候間 此後在来 方<着荷相成候共一己立取扱不相成仲間衆評之上取捌き可被致候事 荷主之外新規之仁積登り候欤又者変名抔いたし運送可致義も難斗候間 若備後魚新規ニ何 同所漁師中へ直下ヶ之儀被引合候へ共頓着不致 依之直段引上ヶ仕切いたし呉候哉無左候

右御承知之上調印可被成候 以上

但在来荷主ゟ運送相成候ハト定着問屋ニ而相捌候義者可為勝手候事

子八月廿二日

年行司(問 屋

備久殿印

備米殿回

鮒亀殿印

鮒政殿回

覺

備後水呑村之儀ニ付先通達被置候通近ゝ新規ニ魚積登り候哉ニ相聞候間兼而之通御承知置可 治定致候ハト在来通之儀相違無之様御心得置可被成候 主着致候共一己立取扱ひ不致仲間衆評之上取捌キ可致事ニ承知可被成候 被成者勿論餘国之名前申来候哉も難計 依之右水吞村魚分明ニ治定致候迄何国何方ゟ新荷 尤前顕水吞村魚

右御承知之上調印可被成候 已上

但備後魚自然其問屋定着荷主之内餘国之分ニ変名致来候儀も難計存候間魚筋等入念見改

之上取扱ひ可被成候事

子九月六日 年行司 間 屋

備久殿印

備米殿印

鮒 亀 殿 回

鮒政殿回

į

當節季商人取引 市賣之分 六貫五百五拾文下魚仕切先達而集会之節示談通七月廿七日

より七貫二百文立

右之通承知御調印可被成候

以上

年行司 間 屋

子九月

備久殿印

備米殿印

鮒亀殿印

鮒正殿印

鮒政殿回

覺

下魚仕切當九月十二日ゟ七貫文立 尤商人取引之儀者是迄通り六貫六百文立

右承知調印可被成候 已上

子九月十二日

年行司 (問 屋)

備久殿印

備米殿回

鮒亀殿印

鮒政殿回

一先日通達有之候備後魚我等方江着荷致候ニ付左之通り掛ヶ請取置候間衆評之上御指図通 り了仕候 已上

東魚丁

七貫壱百目

新込はし

廿六貫三百目

子九月十二日 鮒亀殿印

御年行司

先達而通達有之候備後水吞村漁師取揚ケ候魚私方定着荷主清松名前を以着荷いたし前書 丑年九月迄仕切高之内魚目方拾貫目ニ付銭拾貫文ツ、仕切直段引下ケ置仲間箱納壱ケ年相 之通掛ケ請取為替相渡し置候付 立候上衆評之上取捌キ相成候義承知致入津度毎貫数相記シ箱納銭相渡可申候 已上 已来着荷相成共糴買荷物実否相分り候迄當子九月ゟ来 48

子九月廿五日 鮒亀印

御年行司

備後魚之義二付而者前ゝ通達致置候処亦ゝ清松之外新規荷主名前を以何方へ着荷致候哉も 目ニ付拾貫文ツ、仲間箱納之義御承知可被成候 已上 哉も難計 依之松助殿甚助殿両人之外何れ^荷主水呑村魚積被登候共清松同様鱣目方拾貫 難計趣相聞 且者備久当方ニ者甚助殿松助殿の外荷主名前も有之候故右之人積登り被致候

但右備後新規荷主者勿論清松たり共入津貫数掛ケ請取之節仲間ゟ壱人立会可申事 年行司 (問 屋)

子九月廿六日

備久殿印

備米殿回

鮒亀殿印

鮒亀殿囮

鮒政殿回

覚

一當節季商人取引

市賣之分 六貫五百文

外是迄之通り

右之通相定メ候間御承知御調印可被成候 以上

子十月

年行司 (問 屋)

備久殿印

備米殿印

鮒亀殿印

鮒亀殿回

鮒正殿印

鮒政殿回

覚

備前新田九番 藤助

右之仁彼表産物仕法相背候買方致魚積登り候義茂難計自然当地何方江着荷致候共其荷物預 り置国元江引合呉候様頼越し候間右藤助者勿論不分明之荷物着致候ハヽ早速為御知可被成候

一己立取扱不相成候事 此段承知御調印可被成候 已上

子十一月三日 年行司 間屋

備久殿印

鮒亀殿印

鮒亀殿印

鮒政殿印

覚

明之申立無之様入念取扱ひ可被致候 万一跡ゟ相顕レ候ハヽ式目向相背候廉を以取計ひ可致 銭拾貫文ツト仲間箱預り之義承知之上取扱ひ可被成候 尤他魚取交無何心相捌キ候等与不分 自然途中賣致何れ之荷主ニ而茂右水吞村糴買荷物積登り候ハヽ前通達通り目方拾貫目ニ付 備後水吞村糴買荷物取締之義ニ付是迄通達致置候義無異失取計ひ可被成者勿論此後たり共 已上

子十一月五日 年行司 傳屬 展問心得違無之様承知調印可被致候

備久殿印

備米殿印

鮒亀殿印

鮒亀殿回

49

鮒政殿回

貨

御相談申度儀有之候間明十九日昼飯後早ゝゟ無不参当方宅江出席可被成候 以上

子十一月十八日 年行司(間屋)

備久殿印

備米殿回

鮒亀殿印

鮒亀殿印

鮒正殿印

覚

一近頃直賣買及増長候哉替荷相減シ候付明日ゟ人足雇ひ入市賣致候仲間ゟ壱人ツ、附添為 見廻候ニ付見當り次第村方江引合之上仕立ニ寄出訴可致義も有之候間 兼而之通代り合御 出席可被成者勿論 人足賃諸雑費等相懸り可申候間此段御承知置可被成候 已上

子十二月二日 年行司 間 屋

備久殿印

備米殿印

鮒亀 殿 印

鮒正殿@ [

鮒政殿

覚

周防船魚積合ニ而入着致候ニ付相互ニ相違之仕切不致様左之通治定いたし調印致置候事

ま魚四拾五文替

子十二月七日 佐野太卿

鮒亀印

覚

一當節季商人取引

市賣之分 六貫四百七拾文

外是迄之通り

右之通相定候間御承知御調印可被成候 以上

子十二月 年行

年行司間屋

備久殿印

備米殿印

鮒亀殿印

鮒正殿印 鮒亀殿匪

鮒政殿

覚

新春之御慶目出度申納候 然者来ル十一日東糀屋江正九ツ時ゟ無不参本人実印持参御出席可 候義も有之候故右帳面無失念持参可被成候 右承知調印可被成候 已上 被成候 右者例年初集會之席二而是迄名前替有之候方式目帳定客帳等印形改無之分調印申請

丑正月九日 年行司 問屋

備久殿印

備米殿印

鮒正殿印

鮒亀殿印

鮒亀殿印 鮒長殿印

鮒政殿

覺

一當節季商人取引

市賣之分 六貫四百三拾文

外是迄之通り

右之通相定候間御承知調印可被成候 年行司 問屋 以上

丑三月

備久殿印

備米殿回 鮒亀殿印

鮒亀殿印

鮒正殿印

鮒長殿印

一京橋市立方之義ニ付御相談申度依之来ル四日糀屋方へ正九ツ時無不参出席可被成 承知候ハ、調印可被成候 以上 此段御

備久殿印

備米殿回

鮒亀殿印

鮒亀殿印

鮒正殿印

鮒長殿印

但し商売向候得者手代衆之内壱人召連出席可被成候 尤鮒長殿計

一當節季商人取引

市賣之分 六貫五百五拾文

外是迄之通り

丑五月 年行司 (唐) 屋 右之通相定候間御承知調印可被成候 以上

備久殿印

鮒亀殿印

備米殿回

鮒亀殿印

鮒正殿印

鮒長殿印

一當閏節季商人取引

市賣之分 六貫六百文

外是迄之通り

右之通相定候間御承知調印可被成候 以上 丑閏五月 年行司 (郡 屋)

備久殿印

備米殿回 鮒亀殿印

鮒亀殿印

鮒勝殿印

鮒長殿印

52

一當節季商人取引

市賣之分 六貫五百五拾文

外是迄之通り

右之通相定以候間御承知調印可被成候 以上

丑七月

年行司 (問屋)

備久殿印

備米殿回

鮒亀殿回

鮒勝殿印 鮒亀殿印

鮒長殿印

一御相談申度義有之候間明廿一日正九ツ時本人直ゝ印形持参刻限無遅滞西近九江御出席

可被成候 以上

但し差支有之候共不参無之様御出席之事

仲間勘定可致候間御銘ゝ手元取替出銀之分書付持参可被致候事

右之通御承知候ハ、調印可被成候 年行司間屋 以上

備久殿印

丑八月廿日

備米殿回

鮒亀殿印

鮒亀殿印

鮒勝殿印

鮒長殿印

當節真魚買方高下在之地場糴買ニ相成候ニ付東西市場共目分量を以問屋手元へ買取候義 及引合候事 勿論目分量買致間敷候 右之通承知可在之候 若違変之義在之候ハヽ仲間及相談式目通ニ 致間敷候 尤目方買當分之内六拾五匁替祝漁不漁ニ寄通達可致候間其直段ゟ糴買不相成者

丑八月廿一日 出集 年行司影綱

備久殿邸(個人印)

備米殿印(個人印)

鮒亀殿印(個人印)

鮒亀殿印(個人印)

鮒勝殿(即(個人印)

鮒長殿(即(個人印)

一當節季商人取引

市賣分 六貫六百文

外是迄之通り

備久殿印

備米殿回

鮒亀殿印 鮒亀殿印

鮒正殿印

鮒長殿印

一懸魚賣渡シ代金立

當十月十日〆渡ゟ 六貫七百文立

外是迄之通り

五十月 年行司 ^{唯行司} 左之通取引承知調印可被成候 以上

備久殿印

備米殿回

鮒亀殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

鮒政殿 鮒正殿印

一當節季商人取引

市賣分 六貫七百文

外是迄之通り

五十月 年行司 (単行軍) 右之通相定メ候間御承知調印可被成候 以上

備久殿印

備米殿回

鮒亀殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

鮒正殿印

一銭相庭追ふ下落二付

下仕切 七貫弐百文立

懸魚代 六貫九百文立

右之通御承知調印可被成候 以上 右之通當廿日ゟ魚取渡之分相定メ候間其前為替差引等者已前之金立二而相渡可申候事

丑十一月廿日 年行司(問屋)

備久殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

一當節季商人取引

市賣之分 七貫百廿文

外是迄之通り

田十二月 年行司(mg kg 以上右之通相定メ候間御承知調印可被成候 以上

備久殿印

備米殿回 鮒亀殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

鮒政殿

鮒正殿印

可被成候 此段御承知御調印可被成候 以上 年行司迎勤幷御相談申度在之候間明十四日昼飯後早ゝざこば佐野徳方江無不参御出席

備久殿印

備米殿回

鮒正殿印

鮒亀殿印

鮒かめ殿印

鮒長殿印

正月十四日 年行司(m) 屋 以上 一銭相場追ゞ下落ニ付商人取引掛魚之分八干匁ゟ七貫文定

備久殿印

鮒正殿印 備米殿印

鮒かめ殿回

鮒亀殿印

鮒長殿印

覺

一當節季商人取引

市賣之分 七貫百六拾文

右之通相定メ候間御承知調印可被成候 已上 外ニ是迄之通り

年行司 問 屋

寅六月

備久殿印

鮒正殿印

鮒亀殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

覚

備前松江魚定着松江村正助殿被買入之分

備久着

同處 与市殿 同 鮒亀着

| 備久着之内弐文口銭ニ而分ケ荷ニ相成 尤正助|| 個与市殿昨丑年被相休候ニ付正助殿買入之分

) 方承知得心ニ候間壱文方備久江口銭相渡候事 殿ゟ与市かり名前ヲ以鮒亀江着荷被致候節者双

沖新(亞)田四番藤吉殿賣之分

門字 さの太着

も一同集會得等承り糺候上取捌キ決而一己立取扱不相成候間此段承知調印可被成候 以上 右之通定着ニ候処国方漁師衆より直段高直ニ買取呉不申候ハヽ直ゝ當表へ運送不致由ニ而追 不申候間若松江魚何方二定着荷主名前亦者沖新田四番藤吉殿賣之分新規之名前二而積登候と >借り船積登り可申哉ニ相聞 右様之次第追▷脇外江も押移り候而者元方直段糴止取締相立

但前顕之名前二而定問屋江着荷二相成候共一應相談之上取扱可致候事

寅三月八日 年行司(町屋)

備久殿印

鮒かめ殿 卸 即

鮒長殿印

覺

雲州

弥十殿

右者此度初而着荷被致候ニ付御差支無之候ハト御名前之下へ御調印可被下候 以上

寅三月十二日
さの太卿

備久殿印

鮒亀殿回

鮒かめ殿印

鮒長殿印

備前幷ニ柳川於国方鱣買入ニ付模様変可之儀も有之候哉ニ風聞承知致仲間規定之廉心得被 背重ゝ奉恐入候儀ニ付為念通達ヲ以申入候 之方在之候而者仲間及惑乱自品直段引上ケ候様相成難有御触流被為 規之儀申来り候ハヽ仲間一同集評之上取計決而一己立自侭之相談等不相成候 万一心得違 居候故當表入着之上者在来規定之振合ヲ以荷物取捌キ可致筈 若前顕両所者勿論外ゝゟ新 此段承知調印可被致候 以上 仰付候御趣意二相

寅三月十八日 年行司(明 屋

備久殿印

射亀殿回

鮒かめ殿印

四月朔日より金立取引左之通

下魚仕切 七貫五百文

但し荷主勝手ニより正銭ニ而仕切請取候様被申候節者天保銭ニ而相渡可申事

四月朔日ゟ商人江賣渡候下魚代銭

七貫三百文

但し正銭取引者是迄之通

右之通無相違取引可致候事 此段承知調印可被成候 以上

寅三月丗日

年行司(問屋)

備久殿印

鮒亀殿印

鮒かめ殿印

鮒長殿印

一當節季商人取引

市賣之分 七貫六百文

外是迄之通り

右之通相定候間御承知調印可被成候 已上

寅五月

年行司 [奉行司]

備久殿印

鮒亀殿印

鮒庄殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

覚

一筑後柳川元作太郎

(貼紙下)

覚

鮒亀殿鮒長殿わけ荷定着柳川作太郎買場當時両家仕入ニ而毎年差下し被居候所此度双方 示談之上鮒亀殿一手二着荷被成候旨申被出候間此段承知調印可被成候 以上

寅五月 年行司(問屋)

備久殿印

前書之通相違無御座候 以上

鮒亀殿印

覚

一兼而御承知桜之宮修復講之義ニ付急ゝ御相談申度候間明八日市仕舞早ゝ當宅へ御出席可被

成候 以上

寅五月七日 年行司 問屋

備久殿印

鮒庄殿印

鮒亀殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

當月十四日ゟ 下モ魚仕切

金壱両代 八貫二百文

但荷主衆ゟ正銭ニ而請取候様被申候ハヽ成丈ケ天保銭ニ而相渡 都合ニより相断文久銅銭も相渡被申

候事 外二是迄之振合ヲ以甲乙無之様取引可被致候事

右之通承知調印可被成候 以上

寅五月十日

年行司 (昨屋)

備久殿印

鮒亀殿印

鮒庄殿印

鮒かめ殿印

鮒長殿印

修復講弁二仲間勘定可致候間明五日一仕舞早ゝ集銀且銘ゝ手元ゟ取替被置候分御書記し

御持参無不参出席可被成候 此段御承知調印可被成下候 以上

寅六月四日

年行司(馬屋)

備久殿印

鮒正殿印

鮒亀殿印

ふなかめ殿回

雲州松江

右此度初而被登候荷物左之通着荷致度旨被申出候間差支無之候ハヘ御調可被成候 以上 相川屋林次殿

六歩 佐野太

四歩 備久

尤是迄佐野太定着治郎吉殿荷物二後日相顕候得者林次殿名前相除き佐野太一手定着二相成

寅六月七日

年行司 (問 屋)

備久印

佐野太郎

鮒亀殿印

ふなかめ殿回

鮒長殿印

一當節季商人取引

市賣之分 八貫三百文

外是迄之通

右之通相定候間御承知可被成候 已上 寅七月 年行司 間 屋

備久殿印

鮒正殿印

鮒かめ殿印 鮒亀殿印

鮒長殿印

右之通御承知可被成候 已上 一金相場下落三付 商人取引八貫百文

寅七月十四日 年行司 間屋

鮒正殿

備久殿印

鮒亀殿印

鮒かめ殿印

一昨七日集會之上左之通取究候上無相違取計可致候事

無口銭網漁師之向ハ七貫五百文替ニ而目買之事

右之外漁師仲間共兼而相定メ在之候候の通東西調談之上直段相定目方買ニ可被致事

右之通承知仕候 以上

寅八月八日 鮒長卿

鮒亀印

覚

金銭相庭割合も在之候ニ付来ル十四日ゟ着荷之分左之通

下モ魚仕切

金壱両三付 八貫八百文立

尤銭仕切之節ハ半高天保銭ニ而跡者手元有合銭ヲ以相渡可申事

但 商人取引并二京取引共是迄之割合ヲ以取引可致候事

右之通御承知之上調印可被成候 尤無相違様取引可被致候 以上

寅八月八日

年行司間屋

備久殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

京都ら被申越候儀ニ付急ゞ御相談申度儀在之候ニ付明十九日市仕舞ゟ無不参御出席可被成

下候 已上

寅八月十八日

八日 年行司(暦 屋)

備久殿印

対でというという

鮒亀殿印

鮒長殿印

覚

一金相場下落三付九月朔日ゟ着船仕切之義左之通

八貫四百文立

但外是迄之通 尤商人取引も前振合ヲ以取引可被致候事

右之通無相違承知調印可被成候 已上

備久殿印

鮒亀殿印

鮒かめ殿印

鮒長殿印

覚

七貫五百五拾文立一當節季商人取引市賣之分

右之通相定候間御承知調印可被成候 以上此外是迄之通

寅九月七日 年行司 (問 屋)

射正殿@

備久殿印

鮒亀殿印

鮒かめ殿回

鮒長殿印

覚

一掛鯉金立壱両三付 八貫五百文

掛鯉一荷三付飯代弐百文宛

當九日ゟ掛魚商人取引 八貫文立

但下モ魚金立候儀者初相場相縣⑤候上取極可申候事

寅九月九日 年行司 (町 屋)

右之通御定候間承知調印可成候

備久殿

鮒亀殿印

鮒かめ殿印

鮒長殿印

鮒正殿印

覚

一来ル十五日入津之分仕切金立 八貫文

右之通相定候間承知調印可被成候 以上 但當九月節季後両人取引掛金之分右八貫文仕切金立之割合ヲ以取引可被致候事

寅九月十二日 年行司 (間 屋)

備久殿印

鮒長殿印

鮒かめ殿回

鮒亀殿印

鮒正殿印

上

御相談申上度儀在之候間明十五日市仕舞ゟ京橋江船ニ而罷越候間無御不参御出席被下度 各御案内此如計二御坐候 已上

寅九月十四日 年行司 問屋

鮒正殿印

備久殿印

鮒亀殿印

鮒かめ殿印

鮒長殿印

一當節季商人取引市賣之分

八貫文立

此外是迄之通り

寅九月廿九日 年行司 (m) 屋 右之通相定候而御承知調印可被成候 以上

鮒庄殿印

備久殿印

鮒亀殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

一明十日ゟ入津之分仕切金立

八貫四百文

但し商人取引之分明十日より賣出し之分右八貫四百文仕切金立ヲ以前ゝ之通ふり合ニ相

違不致様取引可被致候事

寅十一月九日 年行司 問屬 右之通相定候間御承知調印可被成下事

備久殿印

鮒長殿印

鮒亀殿印

鮒かめ殿印

鮒正殿印

X

定

一諸品高直ニ付當分之内市場出荷主方飯料も可申請候所味噌汁香之物之外野菜類たり共不 差出無飯料二而取計可申候事

尤市場二而飯札相渡持参無之方者相断可申事

一近頃傘紛失多く已来何方たりとも傘壱本ニ付銭七百文宛預り置傘持参之節銭差戻し可申

右之通一統相談相極候上者無相違取計可致候事

但市出候節ニ無之荷主衆外用之途中雨等ニ而かりニ被参候節者格別之事

右之通相定候而御承知調印可被成 寅十二月三日 年行司 (時屋) 以上

備久殿印

鮒長殿印

鮒亀殿印

鮒かめ殿回

鮒正殿印

覚

一當節季商人取引

市賣之分 八貫五百五拾文

外是迄之通

右之通相定候間御承知御調印可被成候 以上

寅十二月廿九日 年行司 (問 屋)

鮒庄殿印

備久殿印

鮒亀殿印

鮒かめ殿印

鮒長殿印

ゟ今橋築地野 ≥ 市兵衛方江無御不参御出席可被下候 新春之御慶目出度申納候然者例年之通初集會并年行司等御相談申度候間明十一日昼飯後

此段承知調印可被成候 以上

卯正月九日 年行司 問屋

鮒庄殿印

備久殿印

鮒亀殿印

鮒かめ殿印

鮒長殿印

一金銭相場高下二付當月五日より入津之魚仕切金立左之通

金壱両付

八貫六百文

外是迄之通

一市出荷主支度之分當月五日ゟ麦飯差出 尤味噌汁香之物之外差出申間敷事

但米六部半 麦三部半

右之通相談之上取極候間無相違取計可被致候此段承知調印可被成候 以上

一先月廿六日寄會所へ御呼出之上御赦に承御手傳之義御諭ニ付壱ヶ月銀弐百匁ツ、御手傳可 申上候旨近ゝ御伺可申上筈ニ付御聞届相成候ハヽ月ゝ中間銘ゝ手元ゟ割合セ出銀可致

義二相談取極候上者相違無之様調印可被成候 以上

卯二月二日 年行司 (問 屋)

鮒庄殿印

備久殿印

鮒亀殿印

鮒かめ殿回

鮒長殿印

X

覚

一當節季商人取引

市賣之分 八貫三百文

外是迄之通

右之通相定候間御承知調印可被成候 以上 年行司(問屋)

卯三月朔日

鮒庄殿印

備久殿印

鮒亀殿印

鮒かめ殿印

鮒長殿印

覚

摂州津田森助

右此度當方初而着荷被致候付御差支無之候ハ、御承知調印可被成下候 若御差支在之候ハヽ

御名前之下<御記し可被下候候 以上 年行司 (唐) 屋

卯四月十六日 鮒庄殿印

備久殿印

鮒亀殿印

鮒かめ殿印

鮒長殿印

一金銭相場高下ニ付来五月朔日より入津之魚仕切金立左之通

金壱両こ付

九貫文

外是迄之振合ヲ以取引之事

卯四月丗日 右之通相定候間御承知調印可被成候 以上 年行司(問屋)

備久殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

X

覚

一當節季商人取引

市賣之分 八貫六百文

外是迄之通

右之通相定候間御承知御調印可被成候 年行司 (問 屋) 以上

卯五月朔日

鮒庄殿印

備久殿印

 \times

鮒亀殿印

鮒かめ殿®

鮒長殿印

覚

X

右之通御承知調印可被成候 以上 右不拂二付引合中取引差止候事 卯五月十四日 年行司 (問 屋)

鮒庄殿印

備久殿剛 鮒亀殿図

鮒長殿邸

覚

平野町御魚筋出し店

びり作

石町松屋町角

人分嘉

卯五月 年行司 (馬) 居之通御承知調印可被成候 以上

備久殿印

鮒正殿印

鮒長殿印 鮒亀殿印 右不拂二付引合中取引差止候事

覚

一當節季商人取引

市賣之分 八貫五百文

外是迄之通

右之通相定候間承知調印可被成候 以上 卯七月十三日 年行司 (時屋)

鮒庄殿印

備久殿印

鮒亀殿印

67

鮒長殿印

覚

一昨日通達申置候処銭相庭高下二付相改

市賣之分 八貫七百五拾文

外是迄之通り

右之通承知調印可被成候 以上

卯七月十四日 年行司 (問 屋)

鮒庄殿印

備久殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

一下荷主方ゟ金立之儀ニイ付被申越候儀有之候ニイ付御相談申度候間明廿四日八ツ時頃ゟ舟ニ而 罷出候処西方角之方ハ乗舟東方角之方ハ宅ニ而御待合居可被成様双方無不参出席可被成候

此段承知調印可被成候 以上 年行司(問屋)

卯七月廿三日

鮒庄殿印

備久殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

過日御相談申上置候通當八月朔日ゟ左之通

下荷主仕切金壱両

七貫文立

譬者大魚拾貫之相場なれハ

七貫金三而七貫五百仕切

中魚三貫相庭なれハ弐貫弐百五拾仕切

ひり弐貫之相庭なれハ壱貫五百仕切

賣方之分當八月朔日より九貫金取引之事

右賣買金立相違致候ニ付相庭見込混雑不致様篤と被致承知不同無之様取引可被成此段承知

調印可被成候 以上

卯八月二日

年行司(門屋)

備久殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

一落魚京橋網漁師之分丈ケ直段相定其外者都而市賣之事

内川之分

七貫八百替

大川之分

八貫文替

右之通相定候間無相違取引可被成候 以上 年行司 (問 屋

鮒庄殿印

卯八月廿八日

備久殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

一當節季商人取引

市賣之分 九貫文

外是迄之通り

卯九月七日 年行司 (m) 屋 以上右之通相定候間承知調印可被成候 以上

鮒庄殿印

備久殿印

鮒長殿印 鮒亀殿印

一當節季商人取引

市賣之分 九貫四拾文

外是迄之通り

右之通相定候間承知調印可被成候 以上

卯十月廿九日 年行司

鮒庄殿印

備久殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

覚

一昨日通達致置候得共金銭相庭高下二付相改左之通

當節季商人取引

市賣之分 八貫九百文

外是迄通り

右之通相定候間承知調印可被成候_以上

鮒庄殿印

年行司 問屋

卯十月晦日

鮒亀殿回 備久殿印

鮒長殿邸

(半丁白紙)

覚

右者仲間之内外方ニ節季迄相待遣シ候故十日目皆濟之催促いたし候而者自荷物賣捌ニ抱可申 賣代銭十日目皆濟請取可申筈之処商人之内相互二見込合節季勘定二相成候向多分有之 引不致不算用之侭節季相成候而も不拂ニ候ハ、両市場張紙可致候事 屋 6名前相記し押切判調印いたし仲間一統へ通達可被致 右名前書相廻し候商人へ者一統取 様可被致事 依之自然十日目不勘定之商人有之候ハ、翌日市立迄相見合沙汰無之候ハ、其問 定いたし候上者是迄何程懇意又者見込遣し商賣為致候商人たり共十日目勘定之規則不相背 与乍迷惑節季勘定ニいたし遣し候向も有之哉ニ付以来往来ゟ定通十日目皆濟可請取筈ニ治

但十日目賣高之内半高入銭有之候ハヽ次之十日〆迄待遣し

其節皆濟無之候ハヽ不勘定之振合を以名前書相廻し可申候事

荷主方仕入金いたし候節者仲間一統差支有無為問合候上仕入貸渡可申規定之処是又近来 計可申候事 猥ニ相成自今以後一軒分定容たり共仕入金いたし候節者年行司へ申出一統為問合之上取

右之通集會評決いたし候上者商人荷主取引向聊之義たり共前顕之趣意ニ相振候取計不相成

出銀為致事濟いたし候迄調中仲間へ預り置可申候 ハ万一違変之儀有之内分ニーて仕入又者見込貸等いたし候向有之候ハヽ其金銭高之通其問屋ゟ

次第之取捌一言申分無御座候 為其調印如件 右二付追而集評之次第ニ應し取捌可致候 右者双方為方之取締厳重ニ相心得可申候 右集評

卯十二月廿九日 年行司 (問 屋)

鮒庄殿印

備久殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

一當節季商人取引

市賣之分 九貫三百文

外是迄通り一當節季商人取引

市賣之分 九貫三百文

懸魚之分

来正月初荷ゟ賣渡分

九貫五百文

但下荷主仕切金立者在来通

右之通相定候間承知調印可被成候 以上 卯十二月廿九日 年行司 間屋

鮒庄殿印

備久殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

一旧冬廿九日再通達之通節季商人取引

市賣之分 九貫八百文

掛魚之分相改

當正月初荷より賣渡分

拾貫文

尤下荷主仕切金在来通

右之通承知調印可被成候 以上

辰正月三日 鮒庄殿印 年行司

備久殿印

鮒長殿印

覚

射亀 問 屋

一當節季商人取引

市賣之分 拾貫五拾文

外是迄通り

右之通相定候間承知調印可被下候 以上 鮒庄殿印

備久殿印 佐野太殿⑪

鮒長殿印

辰三月朔日

一當閏節季商人取引

覚

市賣之分 拾貫弐百五拾文

外是迄通り

后四月 年行司(m) 屋 右之通相定候間承知調印可被成候 以上

佐之太殿印

鮒亀殿印

鮒正殿印

鮒長殿印

一京都ゟ急御用状到来ニ附御相談申度候間明十日市仕舞後ゟ佐野太殿宅迄無御不参御出席 可被下候此段御承知調印可被成候 以上

辰閏四月九日 年行司 問 屋

佐野太殿印

鮒亀殿印

鮒正殿印

商人中ゟ来談之趣ニ付明廿四日佐野太殿宅ヘ無御不参御出席可被成候此段御承知調印 可被成候 以上

但し節前銘ゝ用向多繁之折柄出席致候間前刻限及遅滞候而者一同之差支ニ相成候間延

刻不相成様ご出席可被成候

辰閏四月廿三日 年行司 (問 屋)

佐野太殿印

鮒亀殿印

鮒正殿印

鮒長殿印

讃州小豆嶋中多新兵衛殿此度始鱣當方へ被積登候 若御差支有之候者御名前下二御記可被下候 以上 御差支無御座候者御調印可被下候

辰閏四月廿七日 備前屋久右衛門印

佐之太殿⑪

鮒亀殿印

鮒正殿印

鮒長殿印

73

當五月節季商人取引

市賣之分 拾三貫六百文

外是迄通り

(貼紙) 但昨夜商人中ゟ来願致候趣も有之候間金拂候ハヽ前書金立之通り銭拂候ハヽ天保銭ニ

而請取候事

右之通御承知候ハト調印可被成候

若御不承知候ハン御名前下江下紙可被成候 年行司間屋 卫上

佐野太殿印

辰五月四日

鮒庄殿印

鮒亀殿邸

鮒長殿印

※貼紙下に |で囲んだ文と同じ内容あり

一當節季後初市より掛魚商人取引金壱両ニ付拾四匁定相成候間右之算當ニて御賣捌方可被

成候 此段御承知調印可被成候 以上 年行司 問屋

慶應四年辰五月四日

佐野太殿印

鮒かめ殿印

鮒庄殿印

鮒長殿印

右之通承知御調印可成候 一御相談申度儀御座候間明十九日佐野太殿宅迄市仕舞後より無御不参早ゝ御出席可被成候 以上

辰五月

年行司 問屋

佐野太殿印

鮒正殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

備中津ゞ急嶋助松殿此度始鱣當方へ被積登候 御差支無御座候ハ調印可被下候 若御差支

有之候者御名前下江御記可被下候 以上

佐野太殿印

五月廿七日

備前屋久右衛門印

鮒亀殿印

鮒正殿印

鮒長殿印

御相談申度儀御座候間明廿九日市仕舞後未方ゟ紙屋茶船ニ而御下り可被成候 右之通り

御承知調印可成候 以上

佐野太殿印

辰五月廿八日

年行司(問屋)

鮒亀殿囮

鮒正殿印

鮒長殿印

一市賣分去五月節季後ゟ商人取引賣方之内半方當百二而請取残り半方有合銭ニ而可請取約定

74

付拾貫四百文定二而請取勘定可被成候 可請取約定ニ相究候ニ付而者荷主衆ニも前顕同断ニ付右限日迄賣込候當百之分丈金壱両ニ 之所當百有合銭格外高下ニ付ハ商人中ゟ来願ニ付 觸中迄ヲ以御勘定可被成候 尤有合銭半方之分金子二而持参致候分者晦日相場 五月晦日〆後市賣代銭不残有合銭ニ而

右之通承知調印可成候 以上

處則今朝返事無之 右本かへ之通相定候事但し前顕拾貫四百文品商人中拒障有之候へ晦日両替ゟ當百賣相場聞合昨朔日朝迄高方に返事可致筈之但し前顕拾貫四百文品商人中拒障有之候へ晦日両替ゟ當百賣相場聞合昨朔日朝迄高

辰六月二日

年行司(問屋)

佐野太殿印

鮒亀殿印

鮒正殿印

鮒長殿印

急談申度儀出来候ニ付明三日市仕舞東御両家ゟ紙屋茶船ニ而無御不参御下り可被成候

右之通承知調印可被成候 以上

辰六月二日

年行司(年行司

佐野太殿甸

鮒正殿印 鮒亀殿印

鮒長殿印

御相談申度儀御座候間明九日佐之太殿宅迄市仕舞後ゟ無御不参早ゝ御出席可被成候

右之通承知調印可被成候 以上

辰六月八日

年行司(間屋

佐野太殿印

鮒正殿印

鮒亀殿回

鮒長殿印

先達而
ら京阪共
魚直段
大下落
二付
而者下
方荷
主衆
二お
ゐて
も
當表
相場
之引格
二候
買入
方引
合 二致候処 捌いたし一己立取捌不致様御承知ニ候ハヽ銘^名前下ヘ御調印可被成候 以上 来之仕入且者荷主ゟ漁方江之仕入も宜敷可相成候付 自然新規着荷有之候ハハ仲間立會荷 漁師之内直下ケ不承知之趣ニ哉 取揚候魚持寄運送いたし候哉ニ相聞 左候而者従

但し右考當分仮法を以相談治定いたし置候上考追而平相場「立直候^^前ゝ仕来「立戻り取計可致事

辰六月廿二日

年行司(門屋)

佐野太殿印

鮒亀殿印

鮒正殿印

鮒長殿印

一御相談申度儀御座候間明後廿四日市仕舞後ゟ茶船ニ而京橋ゟ御下り可被成候

右之通御承知御調印可被成候 以上

辰六月廿二日

年行司 (問屋)

鮒亀殿回

佐野太殿印

一豫州西條槙瑞弥七殿此度始鱣佐野太殿へ被積登候 御差支無御座候者調印可被下候

若御差支有之候ハー御名前下へ御記可被下候

鮒亀殿印

辰七月十三日

年行司 (問屋

鮒正殿印

鮒長殿印

一當節季商人取引

拾貫四百文

外是迄通り

辰七月十三日 年行司 (馬屋) 年行司 (馬屋) 年行司 (馬屋) 年行司 (馬屋) 年行司 (東屋) 年行司 (東區) 年行司 (東行司) 東行司 (東行司) 東方

佐野太殿印

鮒亀殿印

鮒正殿印

鮒長殿印

御相談申度儀御座候間来ル廿一日市仕舞後ら佐野太殿宅迄無御不参御出席可被成候以上

右之通御承知候ハ、調印可被成候 以上

辰七月十七日

年行司 問屋

佐
野
太
殿
(印)

鮒亀殿囮

鮒正殿印

鮒長殿印

一去ル六月廿二日通達いたし置候所此段備前八濱新規直段引上買〆いたし右直段外〻江相 響候趣彼表ゟ申被越候ニ付自然新規着荷致候ハト仲間立會荷捌いたし一己立荷捌不致様

御承知二候ハー御調印可被成候 以上

辰八月十七日

年行司 (問屋)

佐野太殿印

鮒亀殿囮

鮒正殿印

鮒長殿印

御相談申上度儀御座候間明廿一日市仕舞後より無御不参佐の太殿迄御出席可被成候

右之通御承知候ハー御調印可被成候 以上

辰八月廿日

年行司間屋

佐の太殿印

鮒正殿印 鮒亀殿印

鮒長殿印

地廻り東西市場共目方買拾文替灰汁出し九文半替相定候ニ付目分量ヲ以買取候儀不相成

尚濱不漁寄通達致候間右直段ゟ糴買不相成候

右之通御承知候ハ、調印可被成候 以上 辰八月廿七日

佐野太殿印

年行司 問屋

鮒亀殿印

鮒正殿印

鮒長殿印

一市賣一件ニ付火急ニ御相談申度儀有之候ニ付今日市仕舞後早ゝハま殿宅迄無御不参御出

席可被成候 尤外用向有之候共代人不相成本人直、御出席可被成候

右之通承知調印可被成候 以上

辰九月六日

年行司(間屋)

佐野太殿印

鮒亀殿回

鮒正殿印

鮒長殿印

當節商人取引市賣之分先九貫六百文は内入之心得三て取集可被成候 尤皆済いたし候先〻

者可為勝手候事

右之通承知調印可被成候

但外是迄通り

辰九月八日

年行司(間屋)

佐野太殿⑪

鮒庄殿印

鮒亀殿囮

鮒長殿印

一御相談申度儀御座候間今日昼後ゟ佐之太殿宅まで無御不参御出席可被成候

右之通御承知候ハン御調印可被成候 以上

辰九月廿九日

年行司 (問屋)

佐野太殿印

鮒亀殿印

鮒庄殿印

鮒長殿印

御相談申上度儀御座候間明廿四日市仕舞後ゟ東筑地能ゝ市兵衛宅まで無御不参御出席可

被成候

右之通御承知調印可被成候 多繁三付前喜限無遅滞早ゝ御出席可被成候幷中村分積金構鬮被致候由三付旁用向但構箱元ゟ立合勘定被致候由被申出 以上 年行司(問屋)

辰十月廿三日

佐野太殿印

鮒亀殿囮

鮒正殿印

鮒長殿印

右之通御承知候^^御調印可被成候 以上 一御相談申上度儀御座候間明十一日市仕舞後ゟ佐野太殿宅まで無御不参御出席可被成候

辰十二月十日

年行司(間屋)

佐野太殿印

鮒亀殿印

鮒庄殿印

鮒長殿印

右之通御承知ニ候ハン御調印可被成候 以上 一御相談申上度儀御座候間明十六日市仕舞後ゟ佐野太殿宅まで無御不参御出席可被成候

辰十二月十五日 佐野太殿⑪

年行司間屋

鮒亀殿囮

鮒庄殿印

鮒長殿印

覺

一當節季商人取引

市賣之分

九貫九百文

外是迄通り

但九貫九百文余五拾文丈銘、思召事

右之通相定候間御承知御調印可被成候

辰極月廿九日

年行司 (問 屋)

佐野太殿印

鮒亀殿印

鮒正殿印

鮒長殿印

船ニ而西三軒同道ニ而京橋迄出浮候間若當日差支有之候ハヽ前日行司宅まで別使御遣シ可被成 新年之御慶目出度申納候 然者御相談申上度儀有之候間明後十五日初寄會市後早ゝより茶

右之通御承知候ハー御調印可被成候 以上 巳正月十三日 年行司間屋

佐野太殿印

鮒亀殿印

鮒正殿印 鮒長殿印

覚

一上納金一條ニ付御相談申上度候間明廿五日鮒屋勝造殿宅へ無御不参昼後早ゝ御出席可 被成候

右之通承知調印可被成候 以上

六月廿四日

年行司 問屋

鮒亀殿印 佐野太殿印

鮒勝殿印

鮒長殿印

一御相談申度儀有之候間明廿一日鮒屋勝造殿宅迄市仕舞後ゟ無御不参御出席可被成候

右之通承知調印可被成候 已上

巳九月廿日

年行司 (問 屋)

佐野太殿印

鮒亀殿印

鮒勝殿印

鮒長殿印

一川魚直賣買一件二付難波村 木津村 千嶋新田 三軒家町江夫、引合書差入置候間右一條二 被成候 付何方より仲間内江如何様之儀頼来候共一己之御取計無之様年行司江通達之上御取計可

右之通承知調印可被成候 以上

年行司 (時屋)

巳十月二日

佐野太殿⑪

鮒亀殿印

鮒勝殿印

鮒長殿印

80

昨十五日御裁判所ゟ天満青物問屋雑喉場生魚問屋當仲間御召之上左之次第御尋

一堂嶋新地裏町西川屋市右衛門ゟ松嶋廓内ニおゐて天保山近辺ニ而取上ケ候荷品糴分賣場共 下<調印可被成候 以上 中無相違本人直ゝ年行司宅江御出可被成候 前顕之次第一切御聞取之儀無之候ハヽ御名前 合二罷越候者有之候ハヽ年行司江可被申出儀与奉存候得共 若聞被置候儀有之候ハヽ今明日 仲間年行司調印之書附ヲ以御断奉申上候処御聞届被為 仰付候 是迄其御銘ゝ御手元江懸 建之儀三仲間問屋江去ル七月頭懸合済ニ相成居候由申立候趣御尋候得共 右等之儀當方ニ者 一切承知致居不申故其段御断奉申上候二付而者新規之儀出来候ハヽ仲間差支ニ相成候段 三

右之通御承知候^^御調印可被成候 以上

巳十月十七日

年行司 間 屋

佐野太殿印

ふな亀殿印

ふな庄殿回

鮒長殿印

覺

此間御相談申上置候通直賣買廉ゞ引合差入候雇人賃銭割符者不及申事柄ニ寄夫ゞ見張 8-等之者市場方角ニ寄雇人御手當置可被成候様通達ヲ以申上候 以上

右之通御承知候^^調印可被成候 以上

巳十月十七日

年行司 (問 屋)

佐野太殿印

鮒亀殿印

鮒庄殿印

鮒長殿印

覚

福村乙五郎

问 源三郎

薭嶌 丑

直賣買取締差支候二付別張紙之通御心得可被成候事 右三人直賣買致候ニ付市場為取締向後仲間ゟ品賣渡候儀不相成都而荷主之向へ品賣渡候而者

右之通承知調印可被成候 已上

巳十一月

年行司 間屋

佐野太殿印

鮒亀殿印

鮒勝殿印

鮒長殿印

覚

嶋町壱丁目 浅田屋友七

右之通承知御調印可被成候 已上 右者直賣買引合中両市場取引差止候事

巳十一月

年行司(問屋)

佐野太殿印

鮒勝殿印 鮒亀殿印

鮒長殿印

御相談申上度儀有之候ニ付明七日市仕舞後ら西下宿近九宅へ無御不参御出席可被成候

右之通承知御調印可被成候 以上

巳十二月六日 佐野太殿印

年行司 問 屋

鮒かめ殿印

鮒勝殿印

鮒長殿印

御相談申度儀御坐候付明廿二日市仕舞後より喜限無遅滞本人直、西下宿近九宅へ御出席

可被成候

右之通承知調印可被成候

以上

巳十二月廿一日

年行司 (問 屋)

佐野太殿印

鮒勝殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

江無御不参御出席可被成候右御承知御調印可被成候 已上 新年之御慶目出度申納候然者来ル十四日御相談申度候間市仕舞早ゝ西下宿近江屋九兵衛方

午正月

年行司 間 屋

佐野太殿甸

鮒亀殿邸

鮒勝殿印

鮒長殿印

来ル七日御相談之儀有之候間市仕舞早、西下宿近江屋九兵衛方江御出席可被成候

右之通承知御調印可被成候 已上

三月五日

年行司 (問 屋)

佐野太殿印

鮒亀殿印

鮒勝殿印

鮒長殿印

覚

一御相談申上度儀有之候ニ付明十九日市仕舞後ゟ御不参なく御出席可被成候

但私病中ニ付京橋ゟ茶船ニ而御下り可申候

右之通御承知調印可被成候 已上

五月十八日

年行司 問屋

佐野太殿印

鮒庄殿印

鮒亀殿印

鮒長殿印

御相談之儀有之候ニ付明十七日市後茶船ニ而西方ゟ出掛候間御待請被成候様致度候

此段御承知調印可被成候 已上

年行司間屋

佐野太殿印

鮒長殿印

覚

一御相談申度儀有之候間明廿四日市仕舞後早〻茶船ニ而西方ゟ参り候ニ付無不参御出席可

被成候

右之通御承知調印可被成候 以上

八月廿三日

年行司 (問 屋

佐野太殿印

ふな亀殿印

鮒庄殿印

鮒長殿印

一明十三日ゟ地真魚目方買左ニ

壱貫目こ付

拾貫五百文替

同アク出シ

壱貫目こ付

拾貫文替

右之通相定メ候ニ付御承知調印可被成候

但若元直段ニ而思召之儀有之候ハヽ御名前下へ思召之通御認御下ケ紙被成候 以上

午九月十二日

年行司 間 屋

佐野太殿印

鮒勝殿印 鮒亀殿印

鮒長殿印

一今日火急ニ御相談申度儀有之候間市後早ゝ佐の太殿宅へ向御不参なく御出席可被成候

右之通御承知調印可被成候 以上

九月廿四日

年行司(問 屋

佐野太殿印

鮒亀殿 (印) 尤鮒長殿へ相願置候二付左様御承引可被成下候 今日者無據御裁判所行二而差支候二付不参仕候

鮒長殿印

中拂節季閏月晦日勘定之由二候得共當仲間之儀者十日月勘定之儀二付市賣惣魚共當月晦 日皆済勘定ニ而可被請取候 尤来月晦日ニ者是迄之通り閏上節季ニ而皆済可被請取候御承知

ニ候ハヽ當市場へ張紙可致候間御承知御調印可被成候 已上

午十月廿五日

但若思召有之候^^御名前下^始末御認可被成候 已上 年行司 (問屋)

佐野太殿印

鮒亀殿印

鮒勝殿印

鮒長殿印

急談之儀有之候間明十六日市仕舞早ゝゟ佐野太殿濱屋敷へ無遅滞御出席可被成候

右之通承知調印可被成候 已上

閏十月十五日

年行司 間屋

佐野太殿印

鮒亀殿印

鮒勝殿印

鮒長殿印

御相談之儀有之候間明四日市仕舞早ゝ船ニ而待請候間御出席可被成候

右之通承知調印可被成候 已上

十一月三日

年行司 (時屋)

佐野太殿⑪ ふな亀殿印

鮒勝殿印

来未年仲間年行司鮒長殿<鬮當之処同人當節病身ニも有之 依之来未年之年行司之義長 之頼ニ付無拠未年長年いたり候間此段御通達申候 就而ハ仲間箱元之儀鮒長殿へ交易い 年之儀同人ゟ段ゝ頼出且餘人を以迄之頼 右者當時諸向取締之用向多分ニ付旁以折入テ

たし同人方ニ而箱元相勤候 右両様之儀御承知ニ候ハト御調印可被下候

若思召も在之候ハゝ名前下へ御答可被下候

午十二月廿二日

年行司(問屋)

佐野太殿印

鮒勝殿印 鮒亀殿印

右之通承知御調印可被成候 已上 御相談之儀御座候ニ付明五日市後早↘助左衛門橋西詰船惣方江無御不参御出席可被成候

未三月四日

年行司(問 屋

さの太殿印

ふな亀殿

ふな庄殿印

ふな長殿印

- 一市立賣代銭是迄節季前日相場を以請取居候處相場高下之次第二而相互ニ勝手之思ひをさ し不宜様相見へ候故以来左之通両市場取引相定候間其見込を以取引可被成候
- 節季後ゟ十日〆毎前日迄之日〻銭相場平均下メ直ニ而金法ニ引直し請取可申候

若正銭被拂渡候方ハ其十日〆平均中直を以銭買取可申事

但十日目皆済之向ハ壱両ニ付弐百文ツヽ引ケ銭相渡可申候

節季皆済之向ハ壱両ニ付百文宛引ケ銭相渡可申候尤節季後三日之間ニ皆済之向ハ同様

之事

但内金被相渡候方ハ十日〆金法之侭引ヶ銭不相渡候事

右之通承知御調印可被成候 以上

未三月十一日

年行司(問屋)

佐野太殿⑪

- ふな亀殿印
- ふな勝殿回
- ふな長殿回

去ル五日市賣代銭請取方及集評今廿日〆より平均相庭左之通

拾壱貫九匁拾五文

右之通令法ニ而可被請取節季後先十日〆候儀者是迄之通御心得可被成候

右之通承知御調印可被成候 以上

未三月十九日

年行司 (問 屋)

さの太殿印

- ふな亀殿印
- ふな勝殿回
- ふな長殿印

今廿九日〆平均下直相場

拾壱貫七匁四拾弐文

右之通金法取引可被成候 此段承知御調印可被成候 已上

三月廿八日

年行司(問屋)

佐野太殿印

ふな亀殿印

ふな勝殿回

ふな長殿印

一當九日〆平均下直銭相庭

拾壱貫弐百四十五文

さの太殿回

ふな亀殿印

ふな庄殿回

ふな長殿回

一今十九日〆平均下直相場

拾貫九百六十弐文替

右之通市賣代銭金法御取引可被成候 已上

未四月十九日

年行司(問屋

鮒亀殿印 佐野太殿印

鮒正殿印

鮒長殿印

今晦日〆平均下直銭相庭

拾貫九百六拾文

右之通相成候間金法取引御承知可被成候

四月廿八日

年行司 (問屋)

さの太殿回

ふな亀殿印

ふな正殿印

ふな長殿印

當節季銭相庭平均下直

拾壱貫三拾六文

右之通二候間此段御承知可被成候 年行司 間 屋

五月三日

さの太殿回

ふな亀殿印

ふな長殿回

ふな正殿印

今九日銭相庭平均下直

拾壱貫百弐十六文

右之通金法御取引可被成候 已上

五月九日

年行司 (問 屋)

佐野太殿印

ふな正殿印

ふな亀殿印

ふな長殿印

今九日〆平均下直銭相庭

拾壱貫三百四文

右之通金法二而市賣代御取引可被成候 未五月十九日

さの太殿印

年行司(問屋)

ふな亀殿印

ふな正殿印 ふな長殿印

今廿九日〆平均銭相庭

十一貫六百弐拾文下直

右之通御承知可被成候 已上

五月廿九日

年行司(問屋)

さの太殿回 ふな亀殿印

ふな正殿印

ふな長殿印

一今九日〆平均銭相庭

拾壱貫五百十七文

右之通御承知御取引可被成候 已上

六月九日

年行司 (問 屋)

さの太殿回

ふな正殿印

ふな亀殿印 ふな長殿回

一今十九日〆平均銭相庭下直

十一貫弐百九十三文

右之通り御座候間御承知御調印可被成候 年行司 (問 屋)

六月十九日

さの太殿印

ふな亀殿印

ふな長殿印

ふな正殿印

一今廿八日〆平均銭相庭

下直拾壱貫五百三文

右之通金法御取引可被成候

六月廿八日

年行司(問屋)

さの太殿回 ふな亀殿印

ふな正殿印 ふな長殿回

一今九日〆平均銭相庭

拾壱貫四百五十弐文

右之通二御座候 已上

七月九日

年行司 (単行司) (単行司)

ふな亀殿印 さの太殿印

ふな長殿回

一當節季〆平均相庭

拾壱貫四百六十弐文替下直

右之通御承知可被成候 已上

七月十三日

さの太殿回

年行司(問屋) ふな亀殿印

ふな正殿回

ふな長殿印

一今十九日〆平均銭相庭

拾壱貫四百三十五文替下直

右之通御承知御取引可被成候 已上

七月十九日

年行司(問屋)

佐野太殿印

ふな正殿印

ふな亀殿印

ふな長殿回

一今廿九日〆平均銭相庭

十一貫四百七十九文

右之通相成候間御承引可被成候

七月廿九日

年行司(問屋)

さの太殿回

ふな亀殿印

ふな正殿印 ふな長殿回

一今九日〆銭相庭平均下直

十一貫六百弐十五文

佐野太殿印 ふな亀殿印

89

一今十九日〆平均銭相庭

拾壱貫六百四十九文替

右之通御承引可被成候 已上

八月十九日

年行司 (問 屋)

鮒正殿印

鮒長殿印

一今廿八日〆相場左之通

拾壱貫六百三拾文

右之通御承引御取引可被成候

八月廿八日

年行司(間屋

佐野太殿印

鮒亀殿印

ふな正殿印 鮒長殿印

今節季〆

十一貫六百七拾文

右之通御承知可被成候 已上

九月七日

年行司(問屋)

さの太殿回

ふな亀殿印

ふな正殿印

ふな長殿印

今十九日〆平均相庭

十一貫四百九十五文

右之通御承知可被成候 已上

九月十九日

年行司(問 屋

さの太殿回

ふな亀殿印

ふな正殿印

ふな長殿回

西市場地所之内入口濱川ニ而地面拾坪仲間熟談之上佐野屋太右衛門殿へ地貸致此地代金

壱ヶ月ニ金壱歩壱朱弐百八文宛

但し壱ヶ年金四両定之割

右之通約定致候二付御通達申候

存寄無之候ハト御調印可被成候自然申分有之候ハト御書面之下へ御下ケ紙可被成候 已上

未九月廿四日

年行司 (問 屋

鮒亀殿印

鮒勝殿印

鮒長殿印

今廿九日〆銭相庭平均

十一貫四百五十九文

右之通御承知御調印可被成候 已上

九月廿九日

佐野太殿印

ふな正殿印 ふな長殿印

支御不参之方ハ談済之儀跡ニ而故障被下間敷旨御承知可被成候 御相談之儀有之候間明朔日市仕舞後早ゝ安土町芦家江無御不参御出席可被成候 自然御差

右之通承知御調可被成候 已上

未九月晦日

年行司(問 屋

佐野屋太右衛門殿印

鮒屋亀三郎殿印

鮒屋勝蔵殿印

鮒屋長兵衛殿印

今九日〆平均銭相庭左之通

拾壱貫四百七拾四文

右御承知御取引可被成候 已上

未十月九日

年行司 (馬屋)

さの太殿回

ふな亀殿印

ふな正殿印

ふな長殿回

今十九日平均相場左之通

十一貫三百九十三文

右之通御承知御取引可被成候

未十月十九日

年行司間屋

さの太殿印

ふな亀殿印

ふな長殿印

ふな正殿印

今廿八日〆平均銭相場 拾壱貫四百廿四文下直

右之通御承知可被成候 已上

未十月廿八日

年行司 (問 屋)

鮒正殿印

さの太殿印 鮒亀殿邸

鮒長殿印

一今九日〆平均相庭

十一貫四百壱文

右之通御承知可被成候 已上

未十一月九日

さの太殿回 ふな亀殿印

年行司間屋

ふな正殿印 ふな長殿回

一今十九日〆平均相庭

十一貫弐百三十四文

右之通御承引可被成候 已上

さの太殿印

年行司 (問 屋)

未十一月十九日

ふな亀殿印

ふな正殿印 ふな長殿回

今廿八日平均相庭

拾壱貫百四十弐文

右之通御承知可被成候 已上

未十一月廿八日

さの太殿印

年行司(暦屋)

ふな正殿回

ふな長殿回

今九日平均相庭下直

十一貫文

右御承知可被成候 已上

未十二月九日

年行司(間屋)

佐野太殿印

ふな正殿回

ふな亀殿印 ふな長殿回

今十九日銭相庭平均下直段

十貫九百七十五文替

右之通御承知取引可被成候 已上

未十二月十九日

年行司(問屋)

佐野屋太右衛門殿印

鮒屋勝蔵殿印

鮒屋長兵衛殿印

覚

一市取引一条ニ付火急ニ御相談申度候間明廿五日市仕舞早ゝ御不参なく西下宿近九宅へ御 出席可被成候 已上

右之通御承知候ハー御調印可被成候 已上

申二月廿四日

年行司(門屋)

佐野太殿印

鮒亀殿印

鮒勝殿印

鮒長殿印

覍

市立取引銭貨之儀ニ付御相談いたし度ニ而明六日市仕舞ゟ無遅刻西下宿近九宅へ本人直 △御出席可被成候 右御承知之旨御調印可被成候 以上

申三月五日

年行司

鮒亀殿印

鮒長殿印

鮒勝殿印

佐野太殿印

規則書奉差上候処重而御呼出し候上舊来之規則可有之義ニ候ハヽ其次第可申上候与被仰付 則書上御下ケ被下候ニ付此儀も明六日御示談申度候間無間違御出席可被成候

覚

明十六日昼飯後ゟ仲間諸入用勘定調いたし候間取替物在之分書付書出し候等持参ニ而鮒 勝殿宅へ御出席可被成候御承知之旨御調印可被成候 以上

申四月十五日

年行司

鮒長殿印

鮒亀殿印

鮒勝殿

佐野太殿

(裏表紙)川魚問屋

93